

就労継続支援B型 ベーシック憩（要約）

出典：令和6年度総会資料（令和5年度 事業報告）

概要（主要ポイント）

基本方針：ユニバーサルデザインの考え方をベースに、本人の人格・意思を尊重し、利用者主体で「その人らしく自活」できる日中生活を支援。スローガンは「共学・共労・共楽・共生」、テーマは「ジェントルティーチング」。

利用状況：登録23名、1日平均利用16.97人、年間利用率73.92%。班編成はお菓子8名、木工7名、パソコン（ひまわり）8名。療育手帳18名、精神手帳5名。

販路：いちい常設販売、はなしのぶ無人販売（月2回）、ダイハツまつかわ販売（月2回）、共生社会ふくしま実現協議会の展示販売（年8回）等を継続し、地域での販売機会を確保。

施設外就労・地域連携：宍戸果樹園（摘果・袋掛け・収穫など年8回）、船山工業（昼食づくり等：月3回予定）等を実施し、実作業を通じた就労経験を積み上げ。

運営：ケース会議・職員会議・OJT研修を定例化し、日常の支援品質を維持（年度中の職員退職等があり、人材確保・定着が継続課題）。

要点整理（成果・課題・次年度視点）

利用率低下が課題となる一方、販売・施設外就労・地域連携を通じた「働く経験」の機会は維持・拡充。

日常のケース会議・研修（倫理、虐待防止、傾聴、交通安全等）により、支援の共通理解と事故・苦情の予防に注力。

次年度は、授産収益（売上）と工賃向上の両立を図りつつ、福祉的理念を軸に「企業的視点（原価・工程・販路の整理）」を取り入れる方針で整理。

ひまわりプロジェクト（要約）

出典：令和6年度総会資料（ひまわりプロジェクト2023年度報告）

概要（主要ポイント）

ひまわり栽培・種の循環を軸に、生活クラブ生協・グリーンコープ・全国の栽培協力者等と連携し、地域共生の活動として継続。

Zoom会議等により連携が強化され、受注・発送・データ入力・販促物作成等の役割をメンバー（利用者）が担う場面が増加。

種の購入量：合計50kg（R5.3に30kg、R5.4に20kg）。生活クラブ生協向けに「1袋6粒×6,000セット」等の配布・発送業務を実施。

みんなの煎餅・ひまわり油の販売を継続し、売上・工賃・販売手数料を整理しながら運用改善を検討。

資材面では、ひまわり油の瓶がメーカー都合で廃盤予定となり、次年度以降の容器選定・調達が課題として顕在化。

要点整理（成果・課題・次年度視点）

協力者ネットワークの拡大と、利用者の役割定着により、就労機会と社会参加の場を確保。

価格設計・商品ラインナップ見直し、他作業（木工等）との掛け合わせによる工賃向上策が次年度の重点課題。

容器供給リスクへの対応として、代替容器の候補化、調達先分散、在庫管理の見直しを早期に進める必要がある。

相談支援センター リアン（要約）

出典：令和6年度総会資料（令和5年度 事業報告）

概要（主要ポイント）

令和5年4月、福島市の精神障がい者委託相談を受け、名称を「相談支援センターリアン」に変更。基本相談、拠点区分コーディネート、認定調査、ピアカウンセリング、計画相談の5部門体制へ拡充。

体制：職員5名。計画相談の登録は107名（精神・知的・身体の3障害に対応）。

基本相談は電話対応が中心で、訪問・来所・同行・個別会議等を組み合わせて支援（生活上の困りごと、制度利用、家族調整、医療・行政連携等）。

委託相談により夜間対応が可能となり、重複障害、入退院反復、家族拒否、貧困など困難ケースを多く扱う。地域福祉ネットワークと連携し、必要に応じて生活支援資源にも接続。

ピアカウンセリングは毎月第2・第4金曜に実施（会場：まちなか夢工房2階）。家族相談会・個別相談会等も開催し、当事者・家族の「絆（Lien）」づくりを支える。

要点整理（成果・課題・次年度視点）

委託相談窓口として相談量が大きく、電話・訪問・同行を組み合わせた迅速な支援体制が特色。

困難ケースの受入れや、関係機関との連絡調整を通じ、地域全体の相談支援力の底上げに寄与。

8050・ヤングケアラー・引きこもり等の複合課題が増加しており、行政・医療・地域資源との連携強化と相談員の育成が今後も重要。

就労継続支援B型 まちなか夢工房（要約）

出典：令和6年度総会資料（令和5年度 事業報告）

概要（主要ポイント）

実地指導を踏まえた運営整備（勤務体制、虐待防止、身体拘束禁止等）と、月1回の職員研修（外部講師・他事業所参加）により、連携強化とサービス質向上を推進。

就労支援：基本工賃を時給200円 300円へ引上げ。イベント物販、飲食店納品、Tシャツプリント等の受注増により、平均工賃の向上に寄与。

地域交流：7～8月に「福人マルシェ」を店頭で開催（約20事業者、約450名来場）。10月に20周年感謝祭を開催し、地域協賛を得て来店促進。

若者・地域の活動拠点：福島学院大学学生団体等と連携し、パン教室・ものづくり教室を共同企画。ボランティア・アルバイト受入や設備開放により、地域の居場所機能を強化。

利用状況：平均利用者数9.99人、出席率平均61%。年間利用延べ人数は2,530名。

要点整理（成果・課題・次年度視点）

作業は、パン・菓子製造、店舗、集客、企画・営業、経理、ひまわり、価値創造（梱包・納品・プリント等）にチーム化し、役割と見通しを持った就労経験を形成。

工賃水準の改善と、イベント・納品の機会拡大により、利用者の「働く実感」と社会参加の場が増加。

→方で、出席率・参加動機づくりが継続課題であり、地域資源と連携した通所支援の工夫、業務設計の見直しを継続する。